

自主防災組織の活性化に人の“つながり”を! 『人材台帳』作成のすすめ

～市民協働による自主防災組織の活性化～

H30年地震防災強化月間スローガン

「たすけあい 知恵と力と おもいやり」



本書の趣旨とお願い

■人のつながりを生かす自主防災組織へ

大規模な災害が発生したときに、被害の拡大を防ぐためには、行政の対応(公助)だけでは限界があります。自分の身を自分の努力によって守る(自助)とともに、普段から顔を合わせている地域や近所の人々が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組む(共助)が必要になります。

自主防災組織とは、住民一人ひとりの「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚のもと、初期消火や情報伝達、避難誘導、救出・救護、避難所運営等の災害対応活動を連帯して行う組織です。

これらの活動をより効果的に行い、減災につなげていくためには、多くの地域住民を巻き込むことが重要です。技能や資格、多様な経験をもった人材が住民の中にはいます。自主防災組織が中心となって、防災・減災という共通の目的のために力を発揮してもらえ体制づくりをしていくことが求められているのです。

その第一歩が、どのような“人材”が自主防災組織に所属する住民の中にあるのかを把握することです。

本書が手元に届いたことをきっかけに、地域の会合や防災訓練等で、「“人材”発掘から、その素晴らしい能力を発揮する場面までの想定」が話題になればいいと思います。そして、話題が盛り上がってきたら、みんなで特技や資格を出し合い、または、そのような方をお誘いして台帳に記入してもらいましょう。

難しく考えずに、一步一步積み重ねていくことが重要です。

この人材台帳の作成を通じて、地域住民それぞれが自主防災組織を“自分ごと”として捉えることができ、「自主防災組織があることで減災につながった!」が実現できることこそ、私たちみんなの願いです。

人のつながりを活かす市民協働の視点を取り入れた「人材台帳の作成」に、多くの皆さまのご協力をお願い申し上げます。

※人材＝人材

目次

本書の趣旨とお願い	1		
人のつながりを生かす自主防災組織へ			
目次	1		
1.市民協働による自主防災組織の活性化	2		
● 自主防災組織の現状	● 課題	● 地域防災における「市民協働」とは	
● 【コラム①】市民協働の手法を取り入れると	● 【コラム②】市民協働の手法を生かす秘訣		
2.人材台帳とは	4		
● 人材台帳とは	● 人材台帳の現状	● 人材台帳をつくるメリット	● 人材台帳の公開
3.ご協力いただきたい地域の財産である人たち(有資格者)	6		
4.各有資格者の専門知識と技術	7		
①元消防団員・隊員	②地域防災指導員・防災士	③元保健師・助産師・看護師	
④元警察官・自衛官	⑤重機等のオペレーター	⑥民生委員・児童委員	
⑦アマチュア無線有資格者	⑧栄養士・調理師		
編集後記	16		

1 市民協働による自主防災組織の活性化

【自主防災組織の現状】

地域の防災力は、地域の地理的状況や世帯の分布、住民の世代構成、日頃の関わり方などによって変わります。

20年前は新興住宅街であった地域も、現在はシニア層が多かったり、街中であっても空き家が多くなったりと、月日の経過とともに、地域の現状に即した対策を行なっていく必要があります。

自主防災組織は、大規模な災害が発生した際、地域住民の被害を最小限に留めるため、日頃から地域内の安全点検や住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施などの備えを行ってきました。また、実際に災害が発生した際には、初期消火や被災者の救出・救助、情報収集、避難所の運営など大変重要な役割も担っていきます。

これまで比較的画一的に行ってきた自主防災組織の活動を今一度見直し、地域の課題を洗い出していきましょう。

【課題】

長年行われてきた自主防災組織には近年、以下のような課題があげられます。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ①住民の防災意識の低下 | ⑤防災訓練への住民の参加の減少 |
| ②自主防災組織の役員の高齢化 | ⑥地域防災活動の停滞 |
| ③リーダーや後継者などの担い手の不足 | ⑦組織ごとの活動の格差の拡大 |
| ④防災訓練のマンネリ化 | |

また、現在においては以下のような日常における地域課題も合わせて考えることが必要です。

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| ①地域住民の高齢化 | ④福祉的援助を必要とする人たちの増加 |
| ②核家族化、一人暮らしの世帯の増加 | ⑤外国人住民の増加 |
| ③アパートやマンション住民の自治会組織への未加入 | ⑥地域の人口の減少、過疎化 |

市民協働とは

「市民協働」とは、「様々な分野の人々が共に力を出し合って、ある一定の共通の仕事を成し遂げる」という意味の用語です。

大規模地震をはじめとする災害は、被災地に住む人々の年齢や性別、職業、生活状況に関係なく、広範囲にわたり同時に大きな被害をもたらします。

南海トラフ地震の切迫性が強く指摘される中、地域防災活動の原点となる自主防災組織の活性化を図るには、地域の人々の参画や協力、防災関係機関・団体との連携が必要であり、災害時に真に地域を守る防災活動が展開できる自主防災組織づくりが重要となります。

【地域防災における「市民協働」とは】

前項のような課題を解決する方法として、「市民協働」の必要性・多様性が盛んに示されるようになりました。「市民協働」とは、地域に暮らす役割を担う人々や組織が、互いの立場や役割を尊重しあいながら、それぞれが持つ個々の得意なことや立場を活かし、共通の目的のためにそれぞれの目標を掲げ創造していくことです。地域防災においても、地域に暮らす様々な世代や役割の人たちにより「市民協働」で、今まで以上の防災・減災への働きかけができます。

多様な役割の人との協働は、周りの人との関係性を失ったり、拒絶されたりしている住民、自分では情報を集めたり、周りの人との関係性を築いたり、関係性を強めたりできない人たちへの働き掛けも可能になります。

専門知識や資格や技能を持っている人たちを自主防災組織の中で調査し、協力を求めていくことは地域の防災力の強化につながります。資格や技能を持っている人たちに、誰のために、いつ、何を協力してもらいたいのかを伝え、人材台帳に記載し、平時における防災訓練時から協力してもらえ、関係性を地域防災力強化の仕組みづくりにつなげていくことが大切です。



まず「人材台帳」を作ってみよう

《人材台帳作成のメリット》

頼りにされる自主防災組織へ

参加したくなる
防災訓練へ

活かしたスキルを
学べる場へ

顔の見える
関係づくり

地域住民の
つながり醸成

防災訓練の
マンネリ打破

住民みんなの自主防災組織へ「底上げ!」

☆人材台帳を防災訓練時にも活用し、毎年内容を点検・修正、顔の見える関係づくりに努めましょう。

コラム①

市民協働の手法を取り入れると

- ①それぞれの立場で課題や目的を明確にできる
- ②課題解決に向け自主防災組織のメンバーを導ける
- ③自主防災組織の役員と住民、組織や個人の間関係を調整し、相談することができる

コラム②

市民協働の手法を生かす秘訣

- ①「市民協働」を実現する調整役(キーパーソン)の存在が必要
- ②メンバーの特性を活かした役割分担が重要
- ③調整役(キーパーソン)の役割を受け継ぐ仕組み

2 人材台帳とは

【人材台帳とは】

人材台帳作成の目的

自主防災組織の防災活動には、初期消火や情報伝達、避難誘導、救出・救護、避難所運営など、「自分たちの地域は自分たちで守る」という住民一人ひとりの自覚と連帯感が必要です。

これらの活動をより効果的に行い、減災につなげていくには、多くの地域住民を巻き込むことが必要であり、技能や資格、多様な経験をもった人を発掘していく体制づくりが欠かせません。

その第一歩が、自主防災組織に所属する住民の中に、どのような“地域の財産である人”がいるか把握することなのです。

人材台帳作成の手順

①地域の財産である人の見える化

自主防災組織に所属する住民の中に、どのような“地域の財産である人”がいるか把握する

②目的の共有化(理解してもらう)

住民一人ひとりの参加・参画により自主防災組織が運営され、地域の防災力が高まることを説明する

③地域の財産である人のリスト化

「人材台帳の作成」を理解してもらった人材を台帳に掲載
⇒ できあがったものが「人材台帳」となる

【人材台帳の現状】

「人材台帳」の整備率

平成28年に行った静岡県の調査によると、災害時頼りになる資格や技能を持った人材を平常時に予め把握し、『人材台帳』を作成しているのは580組織(13.5%)、現在作成中は156組織(3.6%)となっています。

※H28静岡県自主防災組織実態調査(回答4,296組織 / 県内全5,150組織 回答率83.4%)

静岡県では自治会と自主防災組織は殆ど同じメンバーで構成されています。そこで県内の人口を360万人と仮定した場合、1組織あたり約700人が属していることとなります。静岡県人口に占める二十歳以上の割合は約84%ですので、1組織あたり約588人の方が成人です。

職業経験や特技・資格がある方が地域にどれだけいるのでしょうか。



『自主防災組織に属する住民たち』は、“人財”の宝庫かもしれません!!

【人材台帳をつくるメリット】

人材台帳を作ることは、【有資格者】【住民】【自主防災組織】と、地域全体にとってメリットがあります。

住民にとって

防災意識の向上
防災・減災スキルを学べる
自主防災組織への理解

有資格者にとって

自分の経験やスキル発揮
地域住民として実感醸成
(「外の人」から「中の人へ」)

自主防災組織にとって

防災訓練のマンネリ打破
本当に役立つ組織へ
人脈形成
防災訓練の本気度アップ

【人材台帳の公開】

●人材台帳● **県ホームページに掲載中**
<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/index.html>

人材台帳(記入例)

自主防災組織名

資格・技能等	(ふりがな) 氏名	住所	職業	連絡先・方法(電話番号)		備考
				昼間	夜間・休日	
元消防団	田巢毛 泰造	久井下 119 - 〇〇	農業	99 - 1111	090-xx〇〇	
保健師	田巢毛 泰子	久井下 119 - 〇〇	無職	99 - 1111	090-xx〇〇	
元警察官	大稲穂 太郎	久井下 110 - 〇〇	無職	99 - 1100	090-xx〇〇	
重機オペ	堀田 盛男	久井下 177 - 〇〇	建設	99 - 5050	090-xx〇〇	

○資格・技能等の例・・・元消防団員・隊員・保健・助産・看護師、元警察官・自衛官、整体・接骨師、
栄養・調理師、救急・水難救助資格者、アマチュア無線有資格者、重機等のオペレーターなど

【簡単台帳 作成例】



静岡市元警察官

④元警察官・自衛官

持っている専門知識や技術

・各種災害において救助活動や
予防活動などの対応限界を
超えた地域に派遣された救援
活動経験
・防災及び災害時の防犯に
ついての知識

統計

〈元警察官〉

地方警察官退職者数H19~H28
全国合計 約11万人

〈元自衛官〉

自衛官退職者数
年間 約8千人 (H27年度)

参考

どこに行けば会える？

●自治会・町内会の会合で
問い合わせてみる

〈警察〉

2丁目:鈴木さん 090-3300-000

5丁目:佐藤さん 080-3400-000

〈自衛〉

1丁目:田中さん 090-4400-000

5丁目:高橋さん 080-4500-000

この冊子を活用して
この様に簡単に台帳作成も
OK!!

お願いしたいこと

3 ご協力いただきたい地域の財産である人たち(有資格者)

※こちらは一例です。

①元消防団員・隊員

④元警察官・自衛官

⑦アマチュア無線有資格者

②地域防災指導員・防災士

⑤重機等のオペレーター

⑧栄養士・調理師

③元保健師・助産師・看護師

⑥民生委員・児童委員

☆有資格者以外の人も含め、
すべての住民を巻き込むことが重要!



いろんな特技

いろんな特技

《自主防災組織の活性に向けて》

自主防災組織の中での資格や
技能を持っている人材の把握



多言語
(英語等)が
話せる人

農業・
漁業・林業
経験者

手話の
できる人

災害
ボランティア



人材台帳として記入・整理



ITに
強い人

電気・ガス
水道工事
経験者

防災訓練時に役割分担

料理の
得意な人

福祉の仕事
の経験者



来るべき大規模災害時に活用



アウトドア
の知識の
ある人

元気な人たち
(子どもたち
の声も)



市民協働による
自主防災組織の活性化



4 各有資格者の専門知識と技術

※一例の紹介です。



元菊川市消防団員

①元消防団員・隊員

持っている専門知識や技術

- ・初期消火
- ・救出、救助、応急救護
- ・AEDの使い方
- ・心肺蘇生方法

統計

〈H19～H29消防団員OBとなった方〉

日本に約46,500人、静岡県に約2,000人

参考

どこに行けば会える？

- 市町消防本部へ行って、退団者情報を聞いてみる
- もしくは自治会・町内会の会合で問い合わせしてみる

お願いしたいこと

【平常時(防災訓練時)】

- AEDの使い方をはじめとした応急手当の指導
- 家庭内防災対策の啓発への助言
- 可搬ポンプの取り扱い指導・消火器等の使い方の指導



【災害発生時】

- 火災が発生した場合の、初期消火や消防現職の皆さんの後方支援などをその場の状況に応じた展開
- 地震や風水害などの自然災害が発生した場合は、現場の地形や道路網、世帯状況などを熟知した消防経験に基づく救出・救助活動
- 河川の氾濫や堤防の決壊が起きないように土嚢積みの指示など
- 危険箇所からの退避を促す声かけ

実際の声

水を汲むこと一つとっても、取水源(川、池、水槽、消火栓など)へ横付けするポンプの向き、給水管を伸ばす方向、送水するホースの余長の確保、ポンプエンジンの始動、揚程に適した圧力の設定、放水口にいる人との連絡の取り合い・・・、これらの作業は1回や2回では身につけません。我々も、日ごろの訓練や、数々の実践で身につけました。退団した今、これらのスキルが活かせるのであれば、またお役に立つのであれば、是非協力したいと思います。



富士宮市
地域防災指導員

②地域防災指導員・ 防災士&静岡県 ふじのくに防災士

持っている専門知識や技術

- ・初期消火
- ・救出、救助、応急救護
- ・AEDの使い方
- ・心肺蘇生方法

統計

〈地域防災指導員〉

静岡県に約2,500人

〈防災士〉

日本に約145,000人、静岡県に約3,500人

〈静岡県ふじのくに防災士〉

約2,100人

参考

どこに行けば会える？

〈地域防災指導員〉各市町防災関係室課

〈防災士〉特定非営利活動法人

日本防災士機構へ

〈静岡県ふじのくに防災士〉

地震防災センター(静岡県防災人材バンク)

お願いしたいこと

【平常時(防災訓練時)】

- 自主防災組織が備えておくべき基礎的な事項としての各種台帳、防災マップ、避難生活計画などの作成
- 災害図上訓練「DIG」や避難所運営ゲーム「HUG」を主体的に実施、指導
- 避難所を一緒に使用するなどつながりの深い、小中学校区単位との連携や情報の共有をサポート
- 自主防災活動へのきめ細かな巡回個別指導
- 市町や県の新しい防災施策の広報・啓発
- 防災モニターとして市町や県に地域の防災情報や要望を伝達

【災害発生時】

- 火災が発生した場合の、初期消火や消防現職の皆さんの後方支援など、その場の状況に応じた展開
- 河川の氾濫や堤防の決壊が起きないように土嚢積みの指示など
- 危険箇所からの退避を促す声かけ

【避難所生活】

- 避難所の防犯に関する対策指導や助言



実際の声

私は県の研修を受講し、市長からの依頼で地域防災指導員に就任しました。日頃の指導内容は、会場型の訓練のほかDIG、HUG、イメージTEN、クロスロード等災害対応模擬訓練、自主防災組織の問題解消の相談、県や市の防災広報マンとして施策の周知説明、防災モニターとして地域防災情報や住民の要望を県・市に伝達など、忙しいライフワークを送っております。

同志の皆さんも防災指導員として活躍してください。



静岡市 看護師

③元保健師・ 助産師・看護師

持っている専門知識や技術

- ・疾病の予防や健康増進など
公衆衛生の指導
- ・妊娠、出産、産後、新生児ケア
- ・傷病者などの療養上の世話や
診療補助

統計

〈保健師(現役含む)〉

日本に約51,000人、静岡県に約1,100人

〈助産師(現役含む)〉

日本に約35,000人、静岡県に約1,000人

〈看護師(現役含む)〉

日本に約1,149,000人、
静岡県に約20,000人

参考

どこに行けば会える？

- 自治会・町内会の会合で
問い合わせしてみる

お願いしたいこと

【平常時(防災訓練時)】

- 災害時を想定したAEDやトリアージの説明
- 誰でも出来るけがに対する軽微な処置
- 応急救護や、負傷者の程度や治療の優先順位の判定について指導

【災害発生時】

- 重傷者への処置や助言
- 応急救護や、負傷者の程度や治療の優先順位の判定



【避難所生活】

- 避難所の環境への助言(温度・湿度・換気・防塵・トイレ・手洗い)
- 食環境(カロリー・栄養素)への助言
- 外部からの支援内容(けが、疾病、健康面)の情報の把握と助言
- 他の避難者の手当への助言
- 精神的安定のための助言と行動

実際の声

実際の現場ではトリアージを素早く行っています。

これが患者さんの早期治療につながり、重傷につながるリスクを減らすことにつながります。

この他にも災害により避難者の皆様は精神的にストレスをかかえます。そのため、精神的なサポートを行うように心がけています。



静岡市元警察官

④元警察官・自衛官

持っている専門知識や技術

- ・各種災害において救助活動や予防活動などの対応限界を超えた地域に派遣された救援活動経験
- ・防災及び災害時の防犯についての知識

統計

〈元警察官〉

地方警察官退職者数H19~H28
全国合計 約11万人

〈元自衛官〉

自衛官退職者数
年間 約8千人 (H27年度)

参考

どこに行けば会える？

- 自治会・町内会の会合で問い合わせてみる

お願いしたいこと

【平常時(防災訓練時)】

- 規律を必要とする場面でのリーダーシップ

【災害発生時】

- 災害時の救援活動経験を活かした、救出救助
- 規律を必要とする場面でのリーダーシップ

【避難所生活】

- 避難所の防犯に関する対策指導や助言
- サバイバル的な生活の工夫や助言



実際の声

我々全員が災害応急対策への従事経験があるわけではありませんが危険を避けるために、その場に居合わせた方を誘導したり、災害時に地域のみなさんが犯罪被害に遭うことのないよう、警察で培った防犯知識を活かしたりできると思います。一緒に地域の見回りを行い、みなさんが安心して暮らせる状況をつくっていきましょう。



島田市 会社員

⑤重機等の オペレーター

持っている専門知識や技術

- 瓦礫や土砂等除去などで活躍する重機の操縦

統計

〈県内建設業者数〉
H29年 約14,000社

参考

どこに行けば会える？

- 自治会・町内会の会合で問い合わせしてみる
- 地域の建設関係業者

お願いしたいこと

【平常時(防災訓練時)】

- 災害時を想定した、重機の場所、その他一般の方への協力体制の説明
- 重機操縦資格の取得アドバイスと、その後のフォローアップ

【災害発生時】

- 重機による瓦礫や土砂等除去など



実際の声

発災時、被災者の方々の生活を日常に近い状態まで戻すためには、ボランティアスタッフをはじめとする多くの人々のチーム力が必要と考えます。復旧・復興という目的を共にするチームが円滑に復興支援を行えるよう、重機等で行う瓦礫や危険物の撤去は復興初期段階から重要な役割だと認識しています。また、地域防災においても若者の担い手不足も関係し、災害復興における重機の必要性は年々高まっていると考えています。ご安全に！



菊川市
民生委員児童委員

⑥ 民生委員・児童委員

持っている専門知識や技術

- ・適切な支援やサービスが受けられるように、行政への「つなぎ役」
- ・地域の中の高齢者や障がい者世帯の見守りや安否確認などにも重要な役割

統計

〈県内〉 約6,000人
〈国内〉 約23万人

参考

- どこに行けば会える？
- 各市町民生委員
 - 児童委員担当部署

〈民生委員とは〉

- ・民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員。また、民生委員は児童福祉法に定める児童委員を兼ねています。
- ・職務遂行に当たっては、個人、関係機関から得た情報の秘密を守ることが義務付けられております。

お願いしたいこと

【平常時(防災訓練時)】

- 担当区域内の住民(特に避難行動要支援者など)の実態や福祉ニーズの日常的な把握

【災害発生時】

- 避難行動要支援者の確認と関係する機関へ支援の要請

【避難所生活】(在宅も含む)

- 要援護者の安否確認と地域住民が抱える課題について、相手の立場にたった相談相手
- 社会福祉の制度やサービスについて、その内容や情報を住民に的確に提供
- ニーズに応じた福祉サービスについて、関係行政機関、施設、団体等とのパイプ役

【復旧・復興支援】(発災前コミュニティの維持等による孤立防止)

- 要援護者の安否確認と地域住民が抱える課題について、相手の立場にたった相談相手
- 社会福祉の制度やサービスについて、その内容や情報を住民に的確に提供
- ニーズに応じた福祉サービスについて、関係行政機関、施設、団体等とのパイプ役
- 住民の福祉ニーズに対応し、適切なサービスの提供が得られるように支援
- 住民が求める生活支援活動の実施と支援体制の構築
- 活動を通じて得た問題点や改善策について取りまとめ、必要に応じて民生委員児童委員協議会をとおして関係機関等に意見を提起

実際の声

民生児童委員は「わたしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます」を信条としております。

日頃の訪問で得た情報等を災害発生、避難生活、復旧・復興において活かすようにいたします。また皆様とのコミュニケーションを密にし、困りごとなどの相談をお受けします。

それらに関係する行政機関、自主防災会等へ「つなぎ」、適切な支援が受けられ、自立の援助に結び付けるようにいたします。

皆様から得ました情報の秘密を守って支援活動をいたします。



藤枝市 会社員

⑦アマチュア無線 有資格者

持っている専門知識や技術

・アマチュア無線資格

統計

〈アマチュア無線局〉
全国約43万局(H29)

参考

どこに行けば会える？

- 自治会・町内会の会合で
問い合わせしてみる

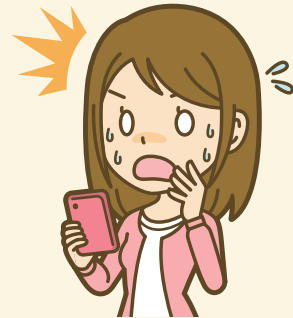
お願いしたいこと

【平常時(防災訓練時)】

- 無線資格取得のアドバイス
- 災害時を想定した、無線の活用方法の説明

【災害発生時】

- 電話が不通になった場合の地域情報の
発信及び外部情報の受信



実際の声

携帯電話及びスマートフォンの普及により、必要な情報をいつでも容易に入手できるようになりました。しかし災害時には電話やインターネットが繋がらなくなり、家族の安否や被害の状況等必要な情報を得ることができなくなることもあります。アマチュア無線機はそのような時でも交信が可能です。災害時には、より多くの情報を確実に得るために出力の大きなアマチュア無線機と発電機及び高い位置に設置したアンテナをつなげて情報収集に務めます。



焼津市 栄養士

⑧ 栄養士・調理師

持っている専門知識や技術

- ・日々の食事のアドバイスや献立、炊き出しなどの調理

統計

〈管理栄養士〉

全国約20万人

〈栄養士〉

全国約104万人

〈調理師〉

全国約378万人

参考

どこに行けば会える？

- 近所の飲食店
- 自治会・町内会の会合で問い合わせてみる

お願いしたいこと

【平常時(防災訓練時)】

- 災害時を想定した日々の食事のアドバイスや献立、炊き出しなどの調理の模擬訓練

【避難所生活】

- 支援の一環で届いた食料物資や、地域内の備蓄食料等を踏まえた献立、炊き出しの調理、指導、助言
- その他、栄養バランスに対する助言
- 調理器具の衛生管理への助言



実際の声

食支援のスペシャリストです。安否の確認と共に、食料を確保することが、心の安心・生命の維持へと繋がります。平常時には、日頃からの食の備えの大切さを啓発し、災害時の避難所運営では、食材の管理から、大量調理の提供が予想されます。災害時要配慮者への対応にも十分心掛け、食中毒を防ぐためにも、しっかりとした衛生管理が重要です。二次災害を防ぐためにも、我々と共に、食事計画をしっかりと立て、避難所を運営していきましょう。

作成：平成30年3月

編集発行：静岡県危機管理部危機情報課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号

電話：(054)221-2644

FAX：(054)221-3252

メールアドレス：boujou@pref.shizuoka.lg.jp

【編集後記】

災害時も平時も、地域住民の「命」と「思い」を守り、つなげて行くことが重要です。

ひとりひとりの備えやスキル、組織マニュアルも大事ですが、人と人、組織と人、組織と組織がつながることは、大きなチカラ、地域の多様なスキルとなります。

みなさんの地域の「人材台帳」が、一つの手段として平時から活用されることで、災害時、みなさんのチカラで地域住民の「命」と大切な「思い」を守っていただけたら幸いです。

